

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2395700111 | | |
| 法人名 | 医療法人あやめ会 | | |
| 事業所名 | グループホームかえで | | |
| 所在地 | 愛知県知多郡東浦町石浜笹原28番地-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年 7月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年10月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivogyoCd=2395700111-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成26年 8月21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人が関わることで落ち着いた環境の中で過ごして頂けるように各委員会などで取り組んだり、勉強会を行い職員の意識の向上を図り薬に頼ることなく心のケアを行い、掃除や食器拭き、盛り付けなど残存機能を使いご利用者様が出来ることをやっていたり、天気の良い日は散歩に出かけたり、喫茶外出や買い物外出など外に出る機会を多く持ち心の安定を図り過剰投与をしない様にしています。利用者様だけではなくご家族様が面会に来られた際職員が利用者様の日頃の様子などを報告することによって関わりを持つように心がけたり、家族会を開きご家族様同士の交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内に委員会を立ち上げ、職員主導の体制を構築し、ホームのサービスの質の改善を考え、質の向上を目指している。接遇・食事・ケアマネジメント・リスクマネジメント・レクリエーション・環境・感染等の各委員会を、ホームの提供するサービスを網羅できるように設置し、所属する委員が中心となって、ホーム全体で協働し、より良い支援につなげて行く仕組みがある。今年度、特に力を入れて取り組んだのが、薬の過剰投与とスピーチロック排除に向けた具体的な支援方法である。どちらも、利用者に対する身体拘束と虐待に当たるという意識を明確にし、職員の意識の向上を図り、利用者の心のケアに配慮し、利用者の本質と向き合う支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送り時理念を職員で復唱し意識を高め実践に繋げている | 職員がホームの中で完結させる支援ではなく、一人ひとりの生活を大切に「感動あるケアの提供」を目指している。職員もそれをよく理解し、職員側から全てを提供するサービスではなく、「できない事の手助け」を通し、その人支援をを実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事への参加をしたり施設行事開催の際はボランティアのかた、行政の方にお手伝いをして頂き交流を深めている | 法人が地域のクリニックであることもあり、地域におけるホームの知名度は高い。散歩時の挨拶や立ち話、地域行事へのお誘い、地域ボランティア受け入れ等、地域住民との交流の機会が多い。また、近隣の方の介護相談等、社会資源としても貢献がある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設内で勉強会を開催したり施設見学をして頂くことによって理解を得ている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の際評価や意見を承ったことを実践にしサービスの向上に繋げている | 年6回の会議を開催している。利用者・家族、地域包括支援センター、民生委員、地域代表等、多彩なメンバーが参加し、出席者の意見交換の場として活用している。内容は職員間で周知共有し、運営や支援に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の時だけでなく行事などを通して、伝えたり協力を頂いたりしている | 地域包括支援センターに法人勉強会の講師を依頼したり、施設長が町主催の認知症サポーター養成講座の講師を受託したりと、相互に専門分野での協働がある。また運営推進会議を通して、事業所理解を推進し、ホームの実情を伝え、連携できる関係づくりに努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束だけでなく、スピーチロックについても勉強会を行ったり、委員会で取組を行い職員の意識を高めている | リスクマネジメント委員会とケアマネジメント委員会を中心となり、勉強会を開催している。特にスピーチロックについて積極的に取り組み、利用者本位の考えかたを職員間で正しく理解し、実践につなげている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 内、外部にて勉強会を行い意識を高めたり職員への促し、指導を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方が見える為、注意事項等話し合う機会を設けている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にご家族様が納得いくように一語一句噛み砕き説明を行っている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会などに意見を求め頂いた意見などを職員に周知し要望に応じている | 面会時や電話連絡時に直接の聴き取りを行う個別対応の他、家族会や運営推進会議は、他者に意見を表出する機会として活用がある。把握した意見や提案は迅速に対応し、職員周知を図るとともに、運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | イベント等を行う際職員に責任を持って取り組んでもらうことにより意見や提案を多く取り入れ反映させている | 月一回の全体委員会が職員の意見交換の場となっている。委員会は職員主導となる事から、各委員会は全体委員会の前に事前委員会を開き、全体で話し合う内容を決定している。職員の意見や提案を協議する場として十分な機能がある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格手当を充実しやりがいや意欲の向上を図っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | フィードバックを行い把握している 法人が外部研修に力を入れている為参加の機会が多い | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に交流を持ち同業者と一緒に勉強会を行いサービスの質の向上を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症の方なので自分の思いをなかなか伝えることが難しいけれどじっくり時間をかけ傾聴したり、寄り添っている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用するに当たって家族の思いに沿えるように傾聴し不安を取り除き柔軟な対応を行っている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時だけではなく必要に応じその方を支援していくために見直しを図り支援に繋げている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や、家事などを通しご自身で出来ることをやって頂いたり共同でお仕事をすることによって関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に近況報告を行ったり、ホットメッセージにて様子を知らせたりし信頼関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所前に交流の有った方々にも面会に来て頂いたり、地域のお店や馴染みの場所への外出をしたりし交流を図っている | 習慣の継続支援として、畑仕事や手芸等、利用者の「やりたい」を支援している。調理の仕事をしていただいた利用者はホームでも料理を楽しんだり、冬場に編み物を希望する利用者の支援等の事例がある。家族外出も積極的に支援し、外食や喫茶店外出等を楽しむ利用者もおられる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットにこだわることなく、又せきなども固定せず自由な空間で過ごせるようにし交流を図れるよう支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 時々連絡を取りご家族様の様子をお聞きしたり受け入れて下さるご家族様にはお宅訪問をさせて頂きお話をしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自立度の高い方には思いや希望などをご本人から伺いそうでない方はご家族様に確認し意向に沿えるようにしている | 聴き取った利用者の希望や意向を、ケアマネジメント委員会で周知している。利用者の意向実現に向け、介護計画に反映させ、個別支援に取り組む事例も多い。また、家族との関係構築で、本人の生活歴を正確に把握し、利用者の意向と向き合っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人にお聞きしたり面会時にご家族様からお話を聞いたり定期的に見直しを行い把握している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子観察を行い、変化などが見られた時には全職員で話し合いを持ち支援方法などを検討している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネ、計画作成担当者だけではなく本人、家族、利用者の担当職員を交えて作成している | ケアマネジメント委員会が中心となり、毎月のモニタリングを実施している。居室担当制で職員意見の集約を図り、原則3カ月毎の見直しを行っている。その後、サービス担当者会議を開催し、利用者や家族の意向を踏まえた介護計画を立案・作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 様子の变化、体調不良など記録を取り申し送り表を活用し職員、ナース間の情報を周知し共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 面会時に様子の变化や体調の変化など報告し、援助方法についても柔軟な対応をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 子育て支援センターなどに外出し赤ちゃんや、子供さんとの交流を図り必要とされていると感じていただく | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医で受診や治療を行い必要であればご家族様の要望も取り入れながら他病院への受診を行っている | 協力医が法人クリニックであることもあり、協力医受診を希望する利用者も多い。原則、かかりつけ医や専門医、他科受診は家族対応であるが、情報提供や、必要時の同行等、適切に家族と情報共有を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 4月より施設に専属ナースが配置されたことにより利用者様の様子や職員間の連携やドクターへの上申がし易くなった | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先に面会に行ったり、病院関係者と情報交換を行い家族の要望に近づけるよう退院に至るまでのサポート支援を行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケアにも積極的に取り組み家族の思いや不安を取り除くことが出来るようチームで勉強会を行い支援できるよう取り組んでいる | 日ごろから、職員間でホーム本来のターミナルの考え方を話し合い、出来る限りの支援を方針としている。今年度は一名の看取りの支援を行っている。事前の本人の希望と、話し合いを重ねるうちに聴き取った家族の意向を尊重し、家族の協力を得たホームでの終末期支援を実践した。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 委員会で取り組んで勉強会を行ったり、救命講習の受講をし知識や実践力を身につけている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災や地震などの災害時における避難訓練を3回と年1回消防署の方に来ていただき避難訓練と指導を行って頂いている | 年4回の訓練を実施し、うち1回は消防署指導の避難訓練を実施している。防災に対する職員意識を高め、利用者や家族の安心に込めている。飲食料の備蓄も行い、有事に備えている。 | 運営推進会議でホームの防災について話し合い、地域とどのように連携していけるかを協議することも一考であると思われる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 委員会が中心となり言葉遣いやスピーチ ロックなどについて取り組みを行い職員が 一丸となって実践へと繋げている | 利用者一人ひとりの尊重はホーム支援の基本で あり、職員の意識も高い。目線を合わせた対応、 表情からの気持ちの汲み取り、真意の把握等、全 職員同意識で取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている | 傾聴を心掛けご利用者様との会話の中から 思いを汲み取り自己にて行って頂けるような 支援を行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様に問い掛けるようにしやりたいこと などを聞き思いに近づけるように支援してい る | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している | 自立度の高い方には入浴時に服をご自身 で選んでいただいている 男性は髭そりを毎日行っている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている | 食材を切ったり、盛り付け等のお手伝いを一 緒に行ったり、昼食時は職員と一緒に食事 をし会話を楽しんでいる | 食事担当が2ユニット分を調理し、盛り付けや配膳 を利用者が担当し、と、賑やかなひと時を視察す ることができた。支援の基本コンセプトが「一緒 に行う」ことであり、食事支援においても見事な実践 がある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェックし足りない場合 は声かけし促しを行いナースやドクターに繋 げている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている | 毎食後必ず口腔ケアを行いうがい薬にてう がいをし、ご自身で出来ない方については 職員が行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりのパターンを把握し定期誘導だけではなくその方に合った方法でトイレでの排泄を支援している | トイレ排泄を基本とした支援を実践している。本人の尊厳保持に努め、状態の維持に熱心に取り組む支援の成果で、状態向上の事例も多い。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量をチェックし個々で摂取量を変え対応し散歩や運動を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調などを考慮したり拒否がみられる方には曜日にこだわらず臨機応変な対応している | 毎日の入浴を提供し、利用者の希望に沿って、一日5～6人の入浴を支援している。清潔保持の視点から、週2回以上の入浴を管理し、入浴拒否に対しても、職員の機転の利く工夫で対応している。個浴を基本とし、利用者や職員のコミュニケーションの機会として活用している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 様子を見ながら静養して頂いたり、夜間帯も個々のリズムに合わせて入眠を促している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ナースと連携を取ったり、委員会で取り組みを行うことによって理解を深めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご家族様の面会時などに生活歴などを聞き趣味などを活かしやってみることで喜びを感じて頂けるよう支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご利用様が皆同じ所へ行くのではなく小グループにて違った目的を持ち外出できるようレク委員会が中心となり行っている | 日常的な散歩を始め、個別対応で取り組む、畑の世話の支援や買い物外出、喫茶店外出等がある。行事外出ばかりではなく、個人の目的や希望に合わせた外出支援に努めている。レクリエーション委員会が中心となり、希望実現の外出を企画している。 | さらなる外出先の検討が期待される。利用者が望むパチンコや居酒屋等も、職員の工夫で実現できることに期待するところである。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一部の方はご自身で所持されている方もみえますがそうでない方には喫茶外出や買い物外出時に支払をして頂く機会を作っている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話に関しては必要に応じ家族や友人に電話をしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設内に日常生活において撮った写真を貼ったり季節感を感じて頂けるような飾り付けを行っている | 掃除は利用者と職員が一緒に行い、季節の飾り付けや思い出の写真の掲示等、居場所の環境づくりを工夫している。地域の人に寄付をお願いした「昔の物」をホーム内に配置し、回想法も兼ねて、利用者の「馴染み」を配慮している。生活感のある空間で、日中は2ユニットの利用者が一堂に集い、賑やかにレクリエーションを楽しんでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室を利用したり同じテーブルに気の合った利用者様と談笑できるようにしている又居室にて気の合った人と一緒に夜を共にすることも有ります | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には必ずご自宅で使用していた物や好みの物を持参して頂けるようお話をしています入居後も必要に応じ相談しながら対応を行っている | 利用者の生活の継続を考え、家族に馴染みの物品の持ち込みを依頼している。視察したどの居室も生活感にあふれ、そこで居心地良く過ごす利用者の姿を想像することができる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 掃除や料理、茶碗拭きなどご利用者様が出来ることをやって頂けるように援助している | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2395700111 | | |
| 法人名 | 医療法人あやめ会 | | |
| 事業所名 | グループホームかえで | | |
| 所在地 | 愛知県知多郡東浦町石浜笹原28番地-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年 7月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年10月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2395700111-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成26年 8月21日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人と人が関わることで落ち着いた環境の中で過ごして頂けるように各委員会などで取り組んだり、勉強会を行い職員の意識の向上を図り薬に頼ることなく心のケアを行い、掃除や食器拭き、盛り付けなど残存機能を使いご利用者様が出来ることをやっていたり、天気の良い日は散歩に出かけたり、喫茶外出や買い物外出など外に出る機会を多く持ち心の安定を図り過剰投与をしない様にしています。利用者様だけではなくご家族様が面会に来られた際職員が利用者様の日頃の様子などを報告することによって関わりを持つように心がけたり、家族会を開きご家族様同士の交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送り時理念を職員で復唱し意識を高め実践に繋げている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事への参加をしたり施設行事開催の際はボランティアのかた、行政の方にお手伝いをして頂き交流を深めている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設内で勉強会を開催したり施設見学をして頂くことによって理解を得ている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の際評価や意見を承ったことを実践にしサービスの向上に繋げている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議の時だけでなく行事などを通し、伝えたり協力を頂いたりしている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束だけでなく、スピーチロックについても勉強会を行ったり、委員会で取組を行い職員の意識を高めている | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 内、外部にて勉強会を行い意識を高めたり職員への促し、指導を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方が見える為、注意事項等話し合う機会を設けている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にご家族様が納得いくように一語一句噛み砕き説明を行っている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会などに意見を求め頂いた意見などを職員に周知し要望に応じている | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | イベント等を行う際職員に責任を持って取り組んでもらうことにより意見や提案を多く取り入れ反映させている | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格手当を充実しやりがいや意欲の向上を図っている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | フィードバックを行い把握している 法人が外部研修に力を入れている為参加の機会が多い | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に交流を持ち同業者と一緒に勉強会を行いサービスの質の向上を図っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 認知症の方なので自分の思いをなかなか伝えることが難しいけれどじっくり時間をかけ傾聴したり、寄り添っている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用するに当たって家族の思いに沿えるように傾聴し不安を取り除き柔軟な対応を行っている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時だけではなく必要に応じその方を支援していくために見直しを図り支援に繋げている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や、家事などを通しご自身で出来ることをやったり共同でお仕事をすることによって関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に近況報告を行ったり、ホットメッセージにて様子を知らせたりし信頼関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所前に交流の有った方々にも面会に来て頂いたり、地域のお店や馴染みの場所への外出をしたりし交流を図っている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットにこだわることなく、又せきなども固定せず自由な空間で過ごせるようにし交流を図れるよう支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 時々連絡を取りご家族様の様子をお聞きしたり受け入れて下さるご家族様にはお宅訪問をさせて頂きお話をしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自立度の高い方には思いや希望などをご本人から伺いそうでない方はご家族様に確認し意向に沿えるようにしている | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人にお聞きしたり面会時にご家族様からお話を聞いたり定期的に見直しを行い把握している | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子観察を行い、変化などが見られた時には全職員で話し合いを持ち支援方法などを検討している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネ、計画作成担当者だけではなく本人、家族、利用者の担当職員を交えて作成している | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 様子の変化、体調不良など記録を取り申し送り表を活用し職員、ナース間の情報を周知し共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 面会時に様子の変化や体調の変化など報告し、援助方法についても柔軟な対応をしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 子育て支援センターなどに外出し赤ちゃんや、子供さんとの交流を図り必要とされていると感じていただく | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医で受診や治療を行い必要であればご家族様の要望も取り入れながら他病院への受診を行っている | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 4月より施設に専属ナースが配置されたことにより利用者様の様子や職員間の連携やドクターへの上申がし易くなった | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先に面会に行ったり、病院関係者と情報交換を行い家族の要望に近づけるよう退院に至るまでのサポート支援を行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケアにも積極的に取り組み家族の思いや不安を取り除くことが出来るようチームで勉強会を行い支援できるよう取り組んでいる | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 委員会で取り組んで勉強会を行ったり、救命講習の受講をし知識や実践力を身につけている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災や地震などの災害時における避難訓練を3回と年1回消防署の方に来ていただき避難訓練と指導を行って頂いている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 委員会が中心となり言葉遣いやスピーチ ロックなどについて取り組みを行い職員が 一丸となって実践へと繋げている | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 傾聴を心掛けご利用者様との会話の中から 思いを汲み取り自己にて行って頂けるような 支援を行っている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様に問い掛けるようにしやりたいこと などを聞き思いに近づけるように支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している | 自立度の高い方には入浴時に服をご自身 で選んでいただいている 男性は髭そりを毎日行っている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている | 食材を切ったり、盛り付け等のお手伝いを一 緒に行ったり、昼食時は職員と一緒に食事 をし会話を楽しんでいる | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている | 食事量や水分量をチェックし足りない場合 は声かけし促しを行いナースやドクターに繋 げている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている | 毎食後必ず口腔ケアを行いうがい薬にてう がいをし、ご自身で出来ない方については 職員が行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりのパターンを把握し定期誘導だけではなくその方に合った方法でトイレでの排泄を支援している | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量をチェックし個々で摂取量を変え対応し散歩や運動を行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 体調などを考慮したり拒否がみられる方には曜日にこだわらず臨機応変な対応している | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 様子を見ながら静養して頂いたり、夜間帯も個々のリズムに合わせて入眠を促している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ナースと連携を取ったり、委員会で取り組みを行うことによって理解を深めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご家族様の面会時などに生活歴などを聞き趣味などを活かしやってみることで喜びを感じて頂けるよう支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご利用者様が皆同じ所へ行くのではなく小グループにて違った目的を持ち外出できるようにレク委員会が中心となり行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一部の方はご自身で所持されている方もみえますがそうでない方には喫茶外出や買い物外出時に支払をして頂く機会を作っている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話に関しては必要に応じ家族や友人に電話をしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設内に日常生活において撮った写真を貼ったり季節感を感じて頂けるような飾り付けを行っている | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室を利用したり同じテーブルに気の合った利用者様と談笑できるようにしている又居室にて気の合った人と一緒に夜を共にすることも有ります | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には必ずご自宅で使用していた物や好みの物を持参して頂けるようお話をしています入居後も必要に応じ相談しながら対応を行っている | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 掃除や料理、茶碗拭きなどご利用者様が出来ることをやって頂けるように援助している | | |